

都市マスの改定に向けて ～可視化データを活用した検討～



名張市都市整備部都市計画室

1. 検討資料の作成

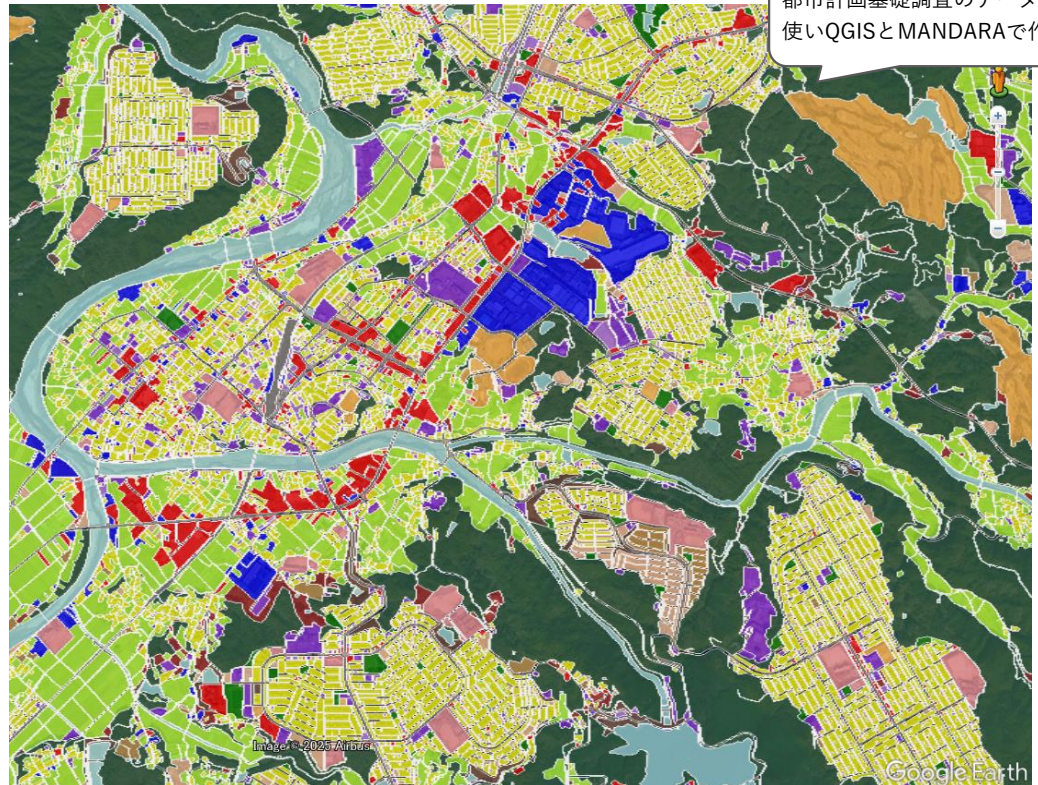
2028(令和10)年に目標年次を迎える名張市都市マスタープランの改定と、名張市立地適正化計画の評価・検証に向けて可視化データを活用した検討資料の作成に取り組みます。



これまでの計画や検討資料に3Dグラフなどの可視化データを加えることで、情報をわかりやすく示す効果が期待できます。



土地利用現況図（市の中心付近）

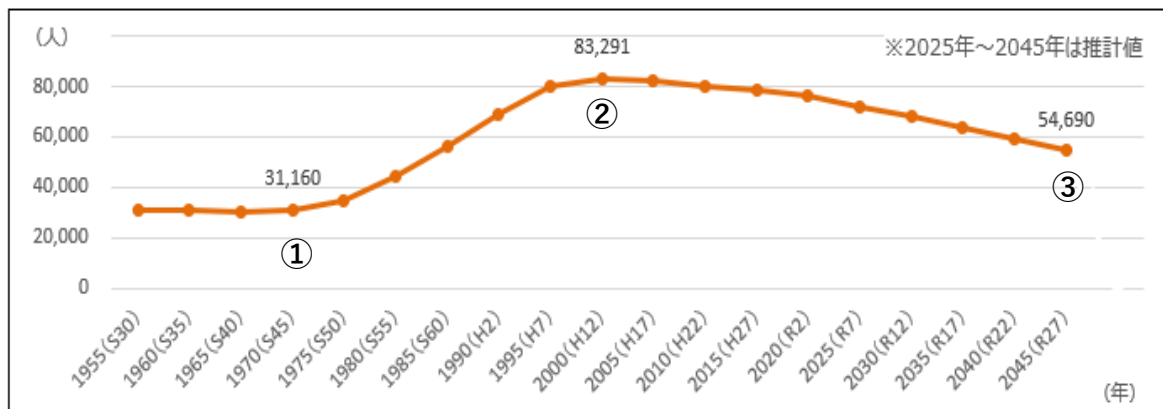


都市計画基礎調査のデータを使いQGISとMANDARAで作成

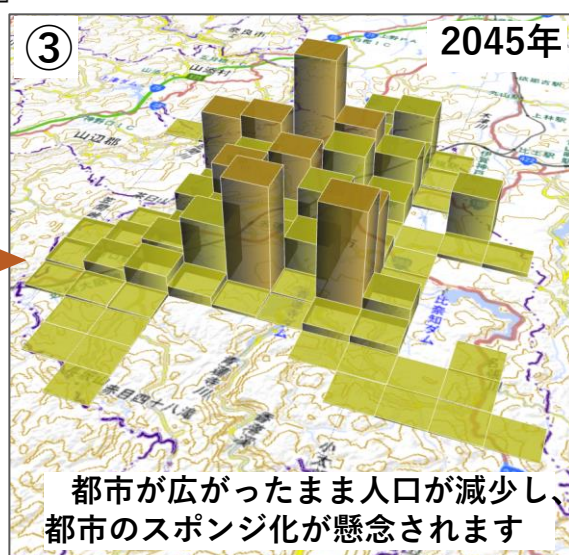
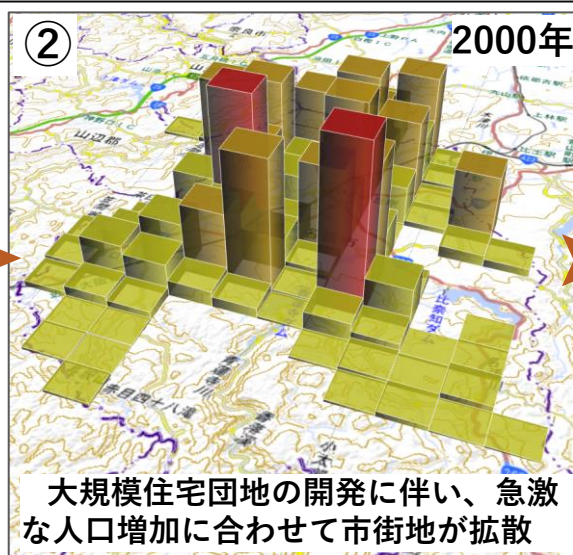
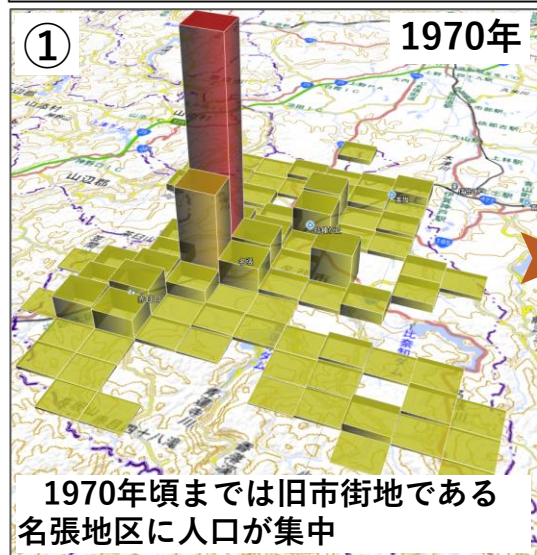
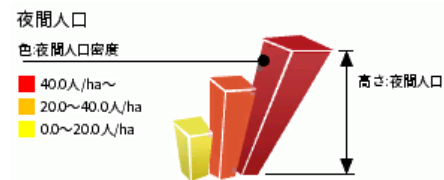
補注：Image © 2025Airbus、Google Earthを使用

2.活用事例…資料作成①

総人口の推移



大規模住宅団地の開発に伴い急激に増加した総人口は2000年をピークに減少をたどり、2045年には6万人を下回ると推計されています。

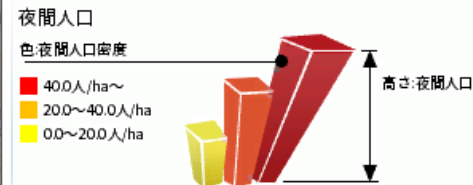
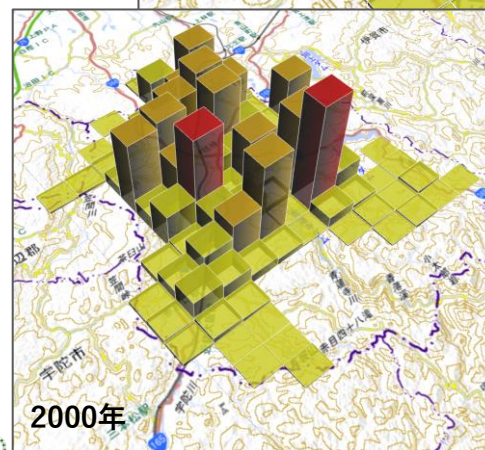
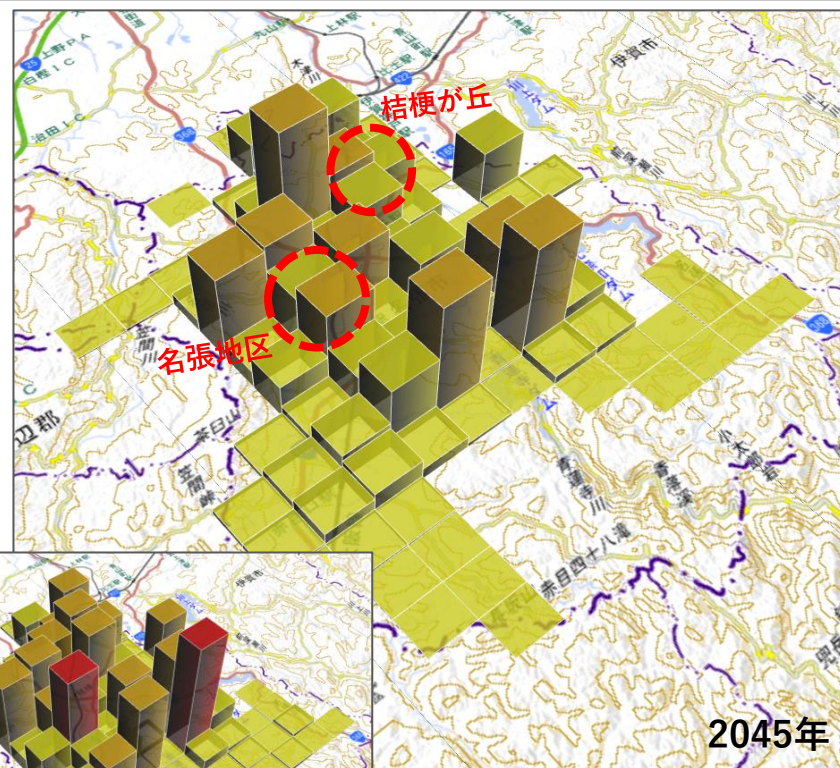
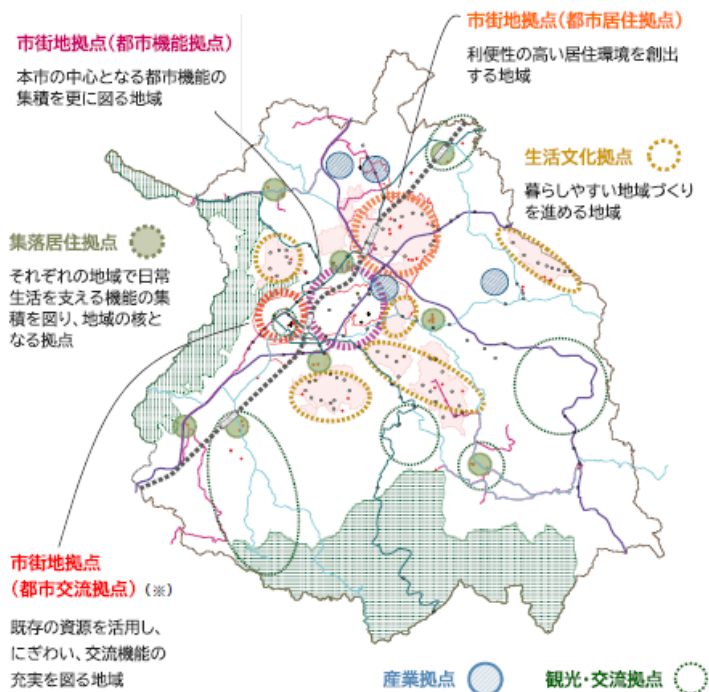


補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3.活用事例…資料作成②

人口と人口密度

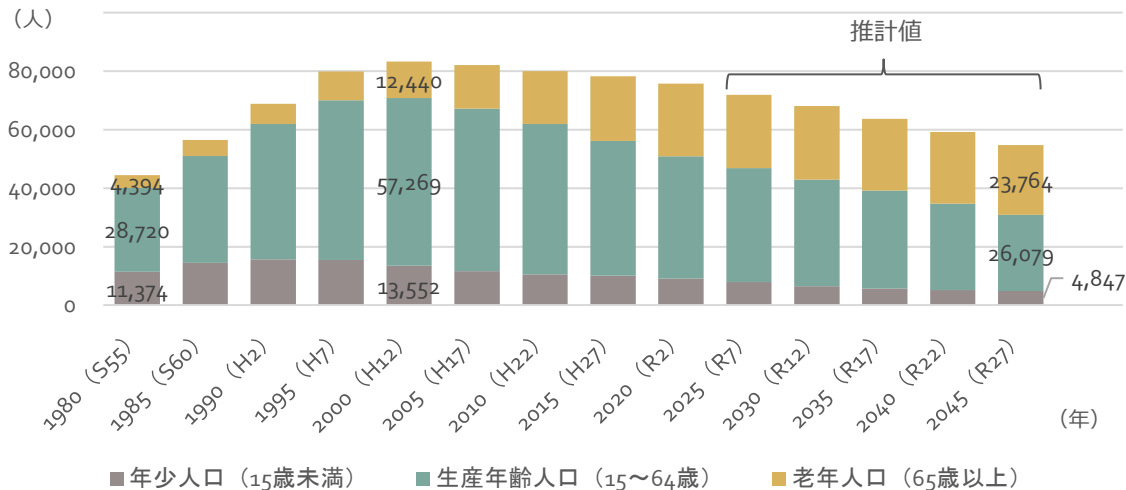
特に、主要な鉄道駅がある名張地区や桔梗が丘など、名張市都市マスタープランで市街地拠点（本市の中心となる都市機能の集積を更に図る地域・利便性の高い居住環境を創出する地域）としている中心部の低下が顕著となっています。



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

4.活用事例…資料作成③

年齢別人口の推移



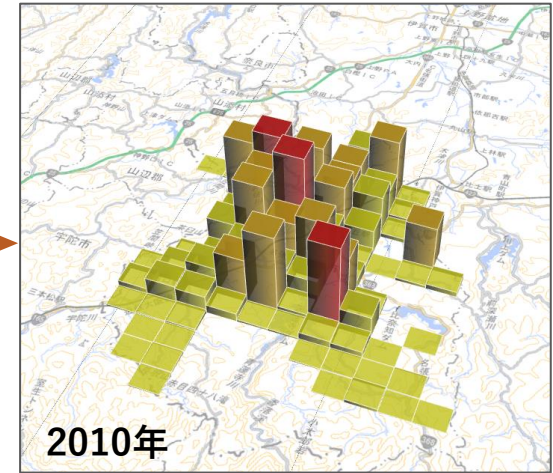
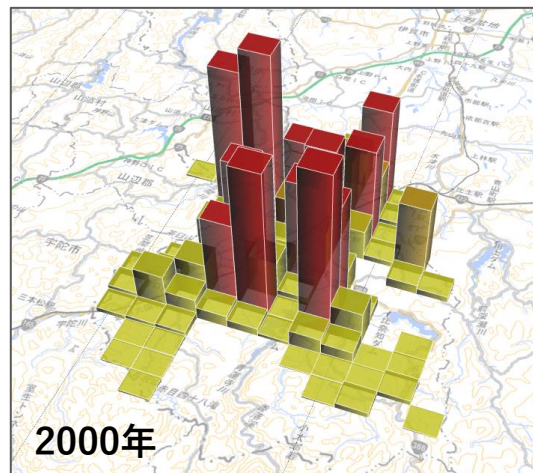
年齢階層別で見ると、年少人口（15歳未満）は1990年、生産年齢人口（15歳～64歳）は2000年をピークに減少傾向となり、2045年には年少人口が4,847人、生産年齢人口が26,079人になると推計されています。

若者の居住地の変化

色：2000年15～19歳人口密度、
2010年25～29歳人口密度



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

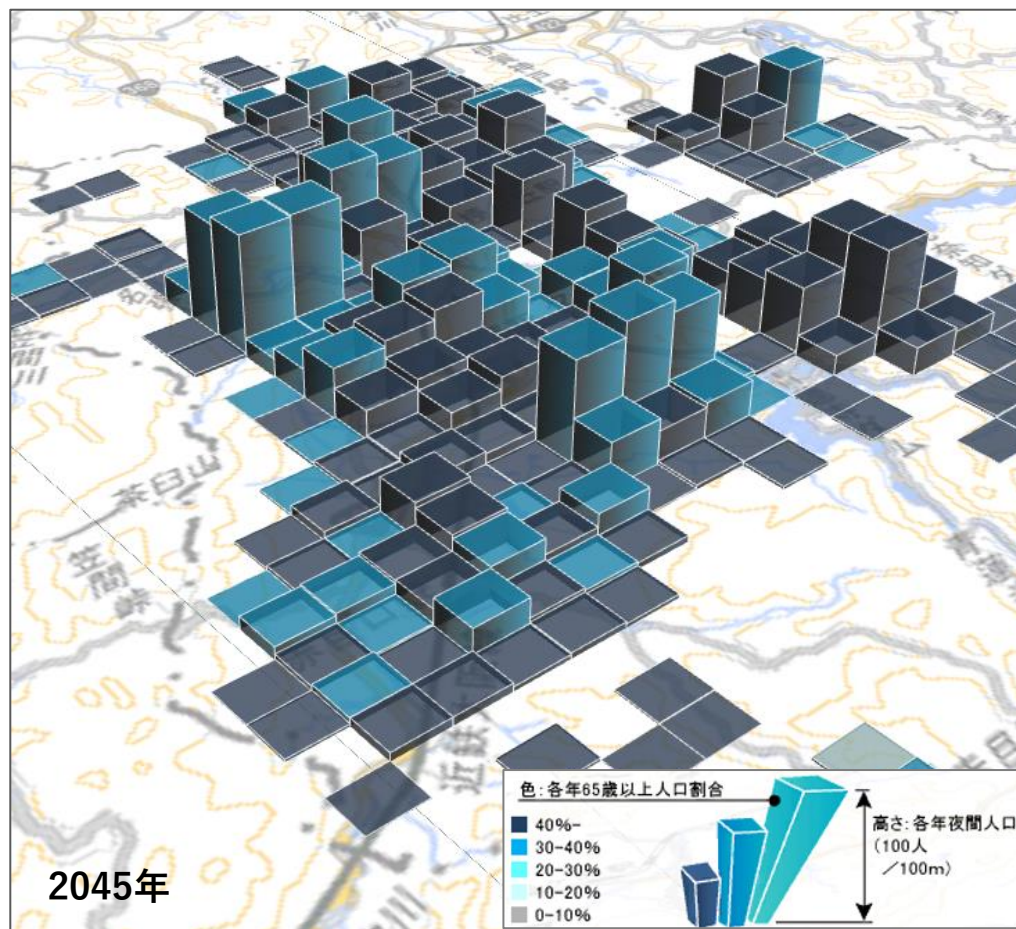
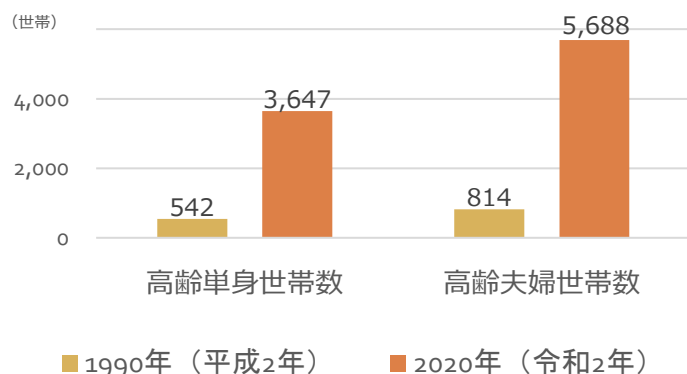


5.活用事例…資料作成④

高齢化率

年少人口・生産年齢人口が減少するのに対し、老年人口（65歳以上）は2025年頃まで増加を続け、2045年には市内のほとんどの地域の高齢化率が40%以上になると推計されています。

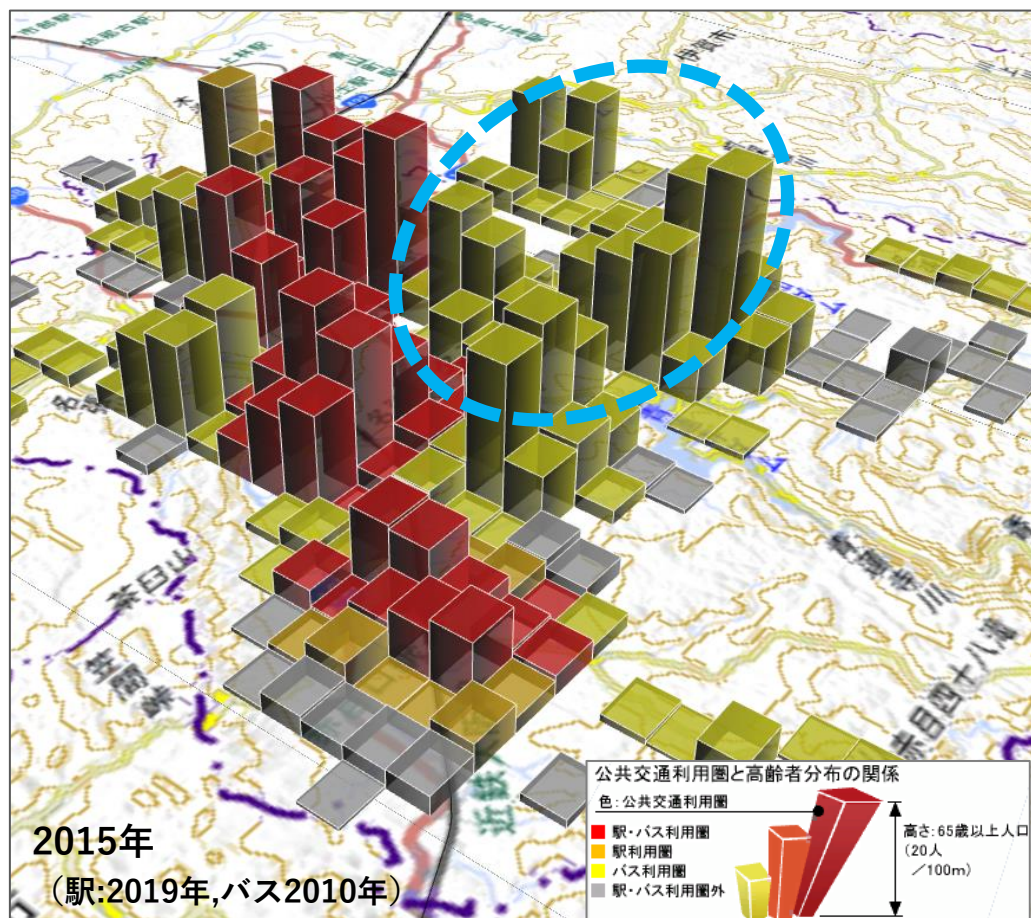
また、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の数も著しく増加しています。



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

6.活用事例…資料作成⑤

高齢者分布と公共交通利用圏

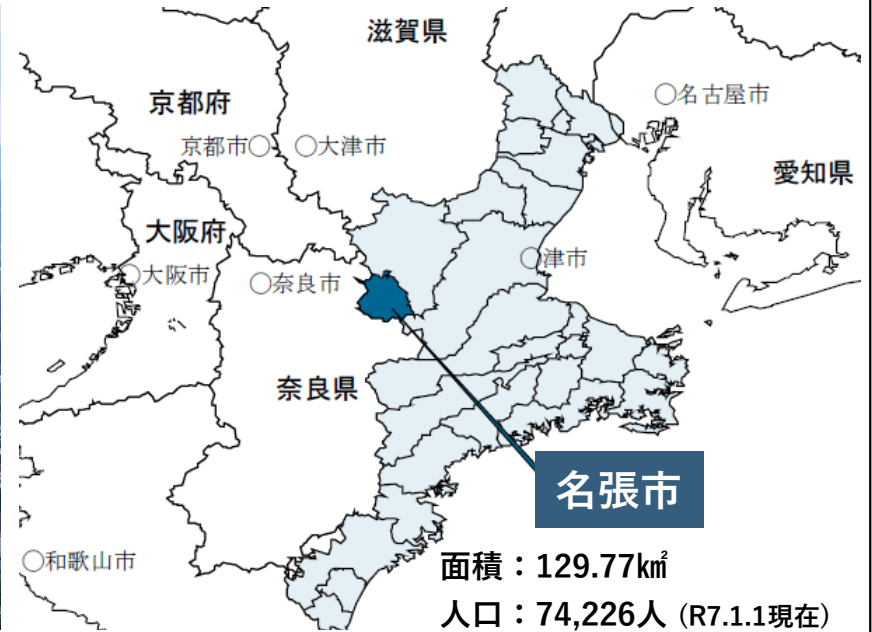


補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

左のグラフを見ると、駅・バス利用圏に65歳以上人口が多く分布されていることがわかりますが、バスのみの利用圏にも高齢者が多くいることがわかります。バス路線の維持に向けた取組や、新たな移動手段の検討が必要です。



国土数値情報のデータを使いQGISで作成



観阿弥創座の地



住宅団地のまちなみ



赤目四十八滝



江戸川乱歩生誕地



伝統の酒づくり